

第 1 回環境市民会議における意見について

1. 環境市民会議の概要

日 時 : 令和元年 7 月 2 日 (火) 14 時 30 分～17 時

構 成 : 公募市民 12 名・事業者 3 名 (当日は公募市民 1 名が欠席)

内 容 : 第二次市川市環境基本計画の改定について、「基本目標、基本理念、施策の分野」に関する意見交換を、ワークショップ形式で実施

2. 意見内容

基本目標
<ul style="list-style-type: none"> ・市の最上位計画である総合計画を踏まえて設定していることが理解できた。
基本理念
<ul style="list-style-type: none"> ・「地球にやさしいまち」の酸性雨やオゾン層破壊の問題と、「健やかに暮らせるまち」の大気汚染や水質汚濁等の問題は、汚染物質を排出する点で共通ではないか。 ・SDGs のゴール 17「パートナーシップで目標を達成しよう」は、「環境をみんなで守り育てる活力あふれるまち」の箇所にだけロゴが入っているが、全ての基本理念に関わるのではないか。 ・それぞれに対応する SDGs を示しているが、全体を統合して横串で刺すような考えが必要ではないのか。
施策の分野
<ul style="list-style-type: none"> ・「3R の推進」について、今は『5R』を掲げている国も存在する。 ・「生物多様性の保全再生」について、『生物多様性』という言葉はまだ一般的ではないと思われるため、括弧書きで「自然環境の保全再生」を加えたほうが、市民にとって分かりやすいのではないか。 ・「生物多様性の保全再生」と「快適な生活環境の整備」は、緑地・水辺等の場所（施設）の保全の点で共通点があり、施策の分野は近いと考えられる。 ・「生活環境の保全」は大気・水環境等の汚染に関する規制のこと、「快適な生活環境の整備」は景観やバリアフリーといった建設に関することで、両者は別の次元の話なのではないか。 ・「快適な生活環境の整備」に『安心』という言葉を入れて、「安心・快適な生活環境の整備」としてはどうか。 ・「環境学習の推進」と「環境活動への参加の促進」は、全体に係るような形で良いのでは。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・市川らしい環境施策を、市民に示す必要があるのではないか。 ・施策に市民が協力するのは当たり前で、市民活動を行政がサポートするような形にできないか。